

元副会長 本間 啓先生を偲ぶ

本会の元副会長 本間 啓先生には、去る昭和59年2月28日永眠されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

社団法人 日本都市計画学会

日毎に衰弱してゆかれる先生にお目に掛りながらも、必ず回復されるものと信じていた私にとって、それは余りにも早く届いた悲しい報せであった。

筑波から無我夢中で車を走らせ、お宅に着いたのは、御通夜もとうに終わった夜10時過ぎであったろうか。生前と変らぬ安らかなお顔で眠っておられる先生のお姿を拝しながら、これまで、先生の豊かな知識や技術を学び吸収する努力を怠っていたことを反省し、今更ながら失ったものの大きさを痛感した。今後とも、お元気で活躍され、我々を御指導願いたく望んでいた矢先、まだ68歳という若さで御他界された事は誠に痛惜にたえない。

本間先生は東京の御出身。昭和16年東京帝国大学農学部御卒業後、内務省を振り出しに、建設省、総理府と17年間に亘り緑地行政に携られた。後の首都圏近郊緑地保全法による指定区域は、先生の総理府在職中の成果である基礎調査を基に設定されたものである。

また、この間、先生は東京都立園芸学校に転出され、教鞭をとること2年半、高校造園教育の基礎づくりに貢献された。生前、先生は高校への転出命令を受けた際の困惑と決意をよくお話しになった。昭和51年東大退官記念講義「花芽の分化」には、当時の思いが込められており、特に印象深く聞かせていただいた。

昭和34年からの17年間は、東京大学において園芸学第二講座を担当され、緑地植物植栽学の研究、教育に当られた。特に臨海埋立地の緑化事業に資するため、特殊環境地に対する植物の生態的特性を研究。好砂性植物の調査および汀線植物の実験等の結果纏められた「サンドポンプによる臨海埋立地における緑地植物の植栽に関する研究」は、先生の生涯の大きな業績の一つとして近代造園学に多大な貢献をもたらすと同時に、今日、公共事業として多くの実例を残すに至っている。

東大教授を定年退官された昭和51年、海洋博覧会が沖繩で開催され、政府出展海洋博記念公園の管理財団が設立されるに当たり初代常任理事に就任され、後には理事長として記念公園の維持管理に尽力されるとともに、亜熱帯地域における造園植栽学の指導等に活躍された。

昭和56年からは、東京農業大学に招かれ、造園学科教授および大学院指導教授として後進の指導に当られるとともに、植栽学の研究を続けておられた。

また、先生はこのような研究、教育の間、東京オリ



ピック準備委員会委員、(社)日本造園学会々長、(社)日本都市計画学会副会長など数々の要職を歴任され、深い学識と豊富な経験をもって各界の発展に貢献されている。

植物を心から愛された先生のお宅は、庭の隅々まで永年に亘って収集し育てられた植物で埋めつくされ、さながらミニ植物園であった。居間先のキンギョツバキなど正に珍品。先生は、人為植栽を高く評価され、生態学に対し、植栽学の立場を明確に示された方であった。そして先生が提案、指導された「都市緑化植物園」は現在各地で具体化され、都市緑化に多大の効果をあげつつあるなど、先生が「都市と緑」に残された足跡は大きい。

今、私共は、これら本間先生の数々の業績を受け継ぎ益々発展せしめることを御霊に誓い、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

建設省建築研究所第六研究部長 岩河信文

略 歴

- 大正5年2月16日東京に生まれる。
- 昭和16年 東京帝国大学農学部農学科卒業
- 〃 17年 内務省国土局計画課履
- 〃 23年 東京都立園芸学校教諭
- 〃 25年 建設省都市局計画課調査係長
- 〃 30年 同 計画局施設課課長補佐
- 〃 31年 同 計画局総務課土木専門官
総理府首都圏整備委員会調整官付補佐
- 〃 34年 東京大学農学部助教授、48年 同教授
- 〃 44年 日本造園学会賞
- 〃 48年 日本造園学会長、農学博士
- 〃 50年 日本都市計画学会副会長
- 〃 51年 海洋博覧会記念公園管理財団常任理事
- 〃 54年 同 理事長
- 〃 56年 東京農業大学教授

昭和59年2月28日 永眠 享年68歳

勲三等瑞宝章

大正5年(1916)東京生まれ。昭和16年東京帝国大学農学部卒業後、内務省国土局を振り出しに、建設省都市局そして計画局、さらに総理府首都圏整備委員会と17年間に亘り都市緑地行政に携わる。

昭和34年からの17年間は、東京大学農学部にて園芸学第二講座を担当。この間、緑地植物植栽学の研究並びに教育に当たるとともに、オリンピック準備委員会委員、日本造園学会会長、日本都市計画学会副会長など数々の要職を歴任、各界の発展に貢献された。

近年、東京湾岸埋立地への緑の定着には目を見張るものがある。大井埠頭中央海浜公園、みなとが丘埠頭公園、東京港野鳥公園、辰巳の森緑道公園、有明テニスの森公園など都心に近い公園ながら、山あり、谷あり、沼あり、畑あり、しかも、鬱蒼とした樹林も育ち、とてもヘドロやゴミの山で海を埋立てたところとは信じられない。ここに数多くの野鳥が集まり、都市に住む人々の憩いの場となると共に、都市環境の快適化に効果を上げつつある。これは偏に先生の業績に負うところが大きい。好砂性植物及び汀線植物の調査・実験の結果をまとめら



れた「サンドポンプによる臨海埋立地における緑地植物の植栽に関する研究」は、特に臨海埋立地の緑化事業に資する特殊環境地に対する植物の生態的特性の研究であり、先生の生涯の大きな業績の一つとして近代緑地学に多大な貢献をもたらしたものである。さらに今日、事業の面においても斯様に著しい効果が示されるなど、先生が都市と緑に残された足跡は大きい。

昭和51年、沖縄海洋博覧会開催を機に、政府出展海洋博記念公園管理財団が設立され、同年、東大教授を定年退官された先生は、初代常任理事に就任、のち理事長として記念公園の維持管理に尽力されるとともに、亜熱帯地域における緑地植物植栽学の指導等に活躍された。植物に造詣の深い先生は、“ハブが出るぞ”の制止も何のその、水を得た魚のごとく沖縄の森林を闊歩。よくも無事でおられたものだと感心するが、この沖縄における5年間の生活が先生の健康を蝕んだことは間違いない。

昭和56年東京に戻り、以後、東京農業大学で造園学科教授として教育、研究を続ける傍ら、テレビ等で緑地や街路樹の啓蒙につとめておられたが、遂に病には勝てず、昭和59年2月28日逝去された。享年68歳。勲三等瑞宝章。

本 間 啓 (ほんま あきら)

略歴 (本間 啓)

- 1916 (大正5) 年 東京に生まれる
- 1941 (昭和16) 年 東京帝国大学農学部卒
- 1941 (昭和16) 年 内務省国土局勤務
- 1973 (昭和48) 年 東京大学農学部教授
- 1976 (昭和51) 年 退職 沖縄海洋博記念公園管理財団初代常任理事
- 1975 (昭和50) ~ 1978 (昭和53) 年度日本都市計画学会副会長
- 1981 (昭和56) 年 東京農業大学造園学科教授
- 1984 (昭和59) 年 逝去 勲三等瑞宝章授与

明治大学教授 岩 河 信 文



本 間 啓

大正5年(1916)東京生まれ。昭和16年東京帝国大学農学部卒業後、内務省国土局を振り出しに、建設省都市局そして計画局、さらに総理府首都圏整備委員会と17年間に亘り都市緑地行政に携わる。

昭和34年からの17年間は、東京大学農学部にて園芸学第二講座を担当。この間、緑地植物植栽学の研究並びに教育に当たるとともに、オリンピック準備委員会委員、日本造園学会会長、日本都市計画学会副会長など数々の要職を歴任、各界の発展に貢献された。

近年、東京湾岸埋立地への緑の定着には目を見張るものがある。大井埠頭中央海浜公園、みなとが丘埠頭公園、東京湾野鳥公園、辰巳の森緑道公園、有明テニスの森公園など都心に近い公園ながら、山あり、谷あり、沼あり、畑あり、しかも、鬱蒼とした樹林も育ち、とてもヘドロやゴミの山で海を埋立てたところとは信じられない。ここに数多くの野鳥が集まり、都市に住む人々の憩いの場となると共に、都市環境の快適化に効果を上げつつある。これは偏に先生の業績に負うところが大きい。好砂性植物及び汀線植物の調査・実験をまとめられた「サンドポンプによる臨海埋立地における緑地植物の植栽に関する研究」は、特に臨海埋立地の緑化事業に資する特殊環境地に対する植物の生態的特性の研究であり、先生の生涯の大きな業績の一つとして近代緑地学に多大な貢献をもたらしたものである。さらに今日、事業の面に

おいても斯様に著しい効果が示されるなど、先生が都市と緑に残された足跡は大きい。

昭和51年、沖縄海洋博覧会開催を機に、政府出展海洋博記念公園管理財団が設立され、同年、東大教授を定年退官された先生は、初代常任理事に就任、のち理事長として記念公園の維持管理に尽力されるとともに、亜熱帯地域における緑地植物植栽学の指導等に活躍された。植物に造詣の深い先生は、“ハブが出るぞ”の制止も何のその、水を得た魚のごとく沖縄の森林を濶歩。よくも無事でおられたものだと感心するが、この沖縄における5年間の生活が先生の健康を蝕んだことは間違いない。

昭和56年東京に戻り、以後、東京農業大学で造園学科教授として教育、研究を続ける傍ら、テレビ等で緑地や街路樹の啓蒙につとめておられたが、遂に病には勝てず、昭和59年2月28日逝去された。享年68歳。勲三等瑞宝章。